

オウム対策住民協議会ニュース

シリーズ Vol.1 「オウム真理教の悪行を思い起こす」

はじめに

上九一色村にオウム真理教が進出した一九八九年から、地下鉄サリン事件を起こし麻原が逮捕された一九九五年迄の6年間、風光明媚のどかな富士山麓で、最盛期には八〇〇人を越す出家信者が、10棟のサティアンを含む25の建物の中で、修行を行っていた。

人格の破壊(マインドコントロール) 全財産を布施して出家し

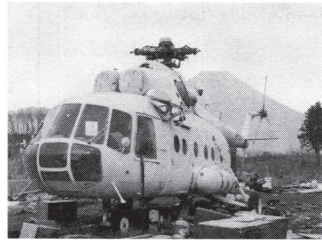


のどかな上九一色村全景

ここが、マインドコントロールされた信者が地下鉄サリン事件等を謀議・実行し、全国から集まった家族が出家した子供を涙ながらに説得した場所である。シリーズの第1回として、このサティアンで何が起こっていたのかを検証する。

た信者は、食事当番などといった担当する仕事と1日4時間という睡眠以外の時間を修行にあてる。修行には、体位法や調気法を使ったり瞑想とマントラ(真言)の口唱から、不眠不休で行う「断食・熱湯・独房の修行」や「ニシエーション(奥儀秘伝)」などの各段階が

血のイニシエーション	麻原の血液を飲む	布施 100 万円以上
愛のイニシエーション	麻原の DNA を使用	布施 100 万円以上
シークレット・イニシエーション	麻原のリンパ球を使用	布施 100 万円以上
パーフェクト・サーベーション・イニシエーション	麻原の脳波をヘッドギアを通して頭部に流し込む	100 万円と 1000 万の 2 コース



オウム所有のヘリコプター残骸

烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会



オウムが所有していた自動小銃 (毎日新聞社提供)

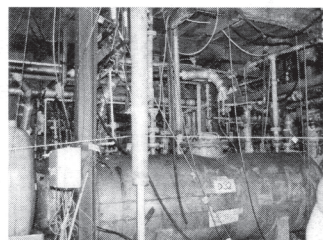
設けられていた。修行からくる疲労や恐怖、LSD

や覚醒剤まで使って演出された神秘体験、これらの連続のなかで、「善悪の判断ができなくなり、自身の不幸すら自覚できず、麻原に帰依する」という洗脳(マインドコントロール)がなされていた。尚、「イニシエーション」は麻原が持つという物理的な力・エネルギー・情報を注ぎ込むというもので、布施の金額で左上表のような種類があった。

人や国の破壊(ポア)

教団の怖さは、条件次第では相手を殺すことが相手のためになるという「殺人を正当化する」教義(タントラバジラヤーナと、この教義(麻原)に帰依する洗脳された信者集団、特に、医学・化学・物理学という専門知識を持った信者集団の両方を持つていたところにある。

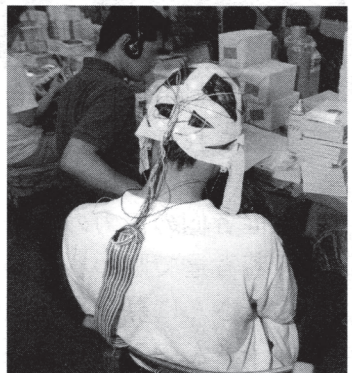
彼らは、教えに疑問を持ったなどで脱走した信者を強引に連れ戻し、その人を救うためのポアと称



サリン製造の装置

オウムの起こした主要凶悪事件

1988年	在家信者間島照之氏が修行中に死亡。遺体を焼却
1989年	上記目撃信者田口修二氏を殺害 坂本弁護士一家殺害
1994年	信者落合耕太郎氏をリンチ殺害 滝本太郎弁護士をサリン襲撃 松本サリン事件 信者富田俊男氏をリンチ殺害
1995年	永岡弘行氏をVXガスで襲撃 飯谷清志氏を拉致監禁、殺害 地下鉄サリン事件



ヘッドギアをつけ作業する信者 (毎日新聞社提供)

募金のお願い

私たちオウム対策住民協議会のオウム教団に対する解散・解体を目的とした運動も、5年を経過してしまいました。

地下鉄サリン事件などの裁判で死刑を確定された元信者がいるにもかかわらず、未だに罪の意識も無く教団の拡大と布教を行っている教団の態度は絶対に許すことは出来ません。烏山道場には未だに約一〇〇名の信者が居住しており、日本各地にはまだまだ多勢の信者が分布して活動を続けています。許してはいけないその行動を阻止するため、オウム教団の完全解散・解体をめざし、これからも行動を続けていく。私たちの活動資金も当初より少なくなり、今後の活動が懸念されます。協議会会員は無償の働きをしていますが、協議会ニュースを発行したり、学習会、他協議会との情報交換など資金が必要です。ぜひ多くの皆さまのご協力、ご援助よろしくお願ひいたします。

募金は左記宛まで、又は直接「烏山総合支所協議会窓口」〇三ー三三三六ー六一三四にて。

振込先 烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会

郵便振込 口座番号 00170・1・662133

セミナー反対の抗議行動を起しました

オウム教団がお盆にセミナーを行うらしいとの情報を得た住民協議会では、8月12日(土)午前7時より、世田谷区と住民協議会メンバーが信者への脱会呼びかけとセミナー開催反対の抗議を行いました。当日は、2時間毎に3交代で、ビラを配りながら、脱会を呼びかけました。午後には台風の為の大雨で抗議行動は中止となりました。延べ20人が行動に参加しました。後日知った事ですが、当日、烏山施設に集まった信者は、長野、奈良県など9カ所の山や寺院を訪ねる「巡礼ツアー」を含む夏季集中セミナーに参加した模様です。信者約70名が参加、800万円以上の資金を得ていた事が分かりました。事前に教団に渡した抗議文を掲載します。

抗議文

住民協議会では、オウム真理教が2000年(平成12年)12月に、烏山地域に「集団居住」して以来、地域住民や青少年の生活と安全を守る為、5年8ヶ月に亘り活動を続けてきた。

今年3月に東京高裁により、元教祖松本智津夫の死刑判決に対する異議申立が棄却された。それ以降教団は、活動を活発化させ、最近の報道では組織を「分裂」させたと聞く。本来であれば、日本の犯罪史上類をみない、地下鉄サリン事件他多くの事件を指示・実行させ、多くの人間を殺害した元教祖の死刑の判決を厳粛に受けとめ、教団を解散させる事が、現在の教団幹部の責任ある役割と考える。しかし、教団は「分裂」を契機に一層組織の拡大強化を図る事を画策している。元教祖、松本智津夫と「一定の距離を置く」という教団の「一部組織」の本質は「羊の皮を被った狼」である。オウム真理教が一連の事件を起した時、教

団の幹部だった人物の言動は、人間の五感のどこにも響かないし、何の信憑性も持たない。住民協議会は、このような人物が組織の実権を握る事に、一層の恐怖と警戒心を抱いている。

教団は、2001年1月に住民協議会に「烏山地域では信者の勧誘・布教活動は行わない。」との約束をしたが、「ヨガ教室」「中国拳法教室」などを通じて、信者の勧誘を続けている。しかも、烏山地域住民にとっては最も警戒していた、オウム真理教によるセミナーが今年の5月に烏山施設で行われた。セミナーは組織信者の洗脳・教祖への服従を本来の目的としている。同時に、教団の財政の源にもなっている。この活動はオウム真理教の組織拡大、強化にもつながる最も危険な活動である。住民協議会は6月に抗議デモを行い、その場でもセミナー実行に対して、抗議文を渡した。しかし、返答は得られていない。一部報道によると教団は、8月にも烏山施設でセミナーを実行する事が伝えられている。住民協議会は、オウム真理教による烏山施設でのセミナーの開催は絶対に許す事は出来ない。教団としての責任ある回答を求める。

2006年8月7日

烏山地域オウム真理教(現アレフ)対策住民協議会



各地のイベント会場で募金活動を行いました

オウム対策住民協議会の活動は皆さんからの募金によって運営されています。

夏祭りの盛んな7・8月、地域の盆踊り・納涼祭等の会場で主催者側の協力のもと、募金活動を行いました。親子連れや若者達で賑わうなか、協議会のメンバーが声をかけながら皆さんに募金をお願いしました。年配のご夫婦や小さいお子さんの手から、多くの暖かい気持ちが募金箱に集まり、おかげさまで各会場において大きな成果を上げる事が

できました。ご協力いただきました皆さん有難うございました。この募金は毎月発行している「協議会ニュース」、年2回開催の「抗議デモ・学習会」等の活動資金として大切に使用させていただきます。私達住民協議会は、オウム真理教解散・解体のスローガンのもと、目的を達成するその日まで地域住民の皆さんと共に運動を続けていく所存です。これからもご支援ご協力をお願いいたします。

住民協議会活動報告

7月25日(火) 実行委員会
7月29日(土) 新樹苑盆踊り大会で募金活動
8月2日(水)・3日(木) 芦花公園駅前盆踊大会で募金活動
8月 3日(木) 事務局会議
8月3日・4日・5日 からすやま夏まつりで募金活動
8月9日(水)・10日(木) 給田納涼盆踊大会で募金活動
8月19日(土) 夏休み夕涼会(粕谷区民センター)で募金活動

8月19日(土) 上北沢町会納涼盆踊大会で募金活動
8月23日(水) 実行委員会
8月25日(金)・26日(土) 南烏山リンレイ公園盆踊り大会で募金活動
8月27日(日) 親子木工まつりで募金活動
9月 2日(土) 仙川駅前街頭募金活動
9月 4日(月) 協議会ニュース59号初校正
9月 5日(火) 事務局会議
9月11日(月) 協議会ニュース59号再校正
9月18日(月) 協議会ニュース59号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。